



百年将来を見据えた人類社会の枢要に資する大学の役割

令和3年度における活動実績・成果の概要

① 社会と専門家のインターフェイスweb構想プロジェクトの立ち上げ

地球温暖化対策としてCOP13 が求めたCO₂排出量削減を例にしても、CO₂排出量を増加させた要因が科学技術の発展であるにもかかわらず、科学技術は削減目標達成のためのマイルストーンを作ることができていない。「科学が社会課題の解決に十分貢献しているとは言えない」との指摘もあり、現状からは「社会のための科学研究」の取り組みの仕組みを作ることそれ自体が「大きな研究課題」になっていると言える。

- 東北大学「社会にインパクトある研究」においても、
- ・個々のプロジェクトが対象とする社会課題が余りにも大きく、達成を実感できない
 - ・解決に非常に長い時間が必要とされる

ことから、「社会にインパクトある研究」の現状が、立ち上げ当初の期待通りに進捗せず、停滞気味であるのではないかと懸念がある。

そこで、本GOプロジェクトでは、「社会のための科学研究」の新たな推進体制を創出するにはどうすればよいか、についての「研究」を進めており、その一環として「インターフェイスweb 構想」の構築を進めている。この「インターフェイスweb 構想」では、個々の研究プロジェクトと社会との隔たりを解消し、専門的知見の公開など、「広報」としてのwebを構築します。

そのため、「持続可能で心豊かな社会創造」を鍵語として、(a)社会課題の現状または今後の状況、(b)社会的に想定される対策、(c)大学において推進すべきこと、(d)「社会のための科学」を推進する上の課題、について各々専門家と社会との間のインターフェイスを作ることが目標となる。「社会にインパクトある研究」推進の困難さを論じ、その打開策を見出すための表現形式を探した結果、この「社会との対話のためのweb構想」となった。専門家と社会の方々「つながる場」を作り、科学的知見をもとにして社会の方々自然観や人生観を豊かになる方向に描き直してみる、このwebをオープンに社会の知恵を集める、双方の意見を取り入れ諸社会課題の解決に近づけていく、そうした「持続可能で心豊かな社会創造」を基軸とした「プラットフォーム」へと発展させたい。

社会と専門家のインターフェイスweb構想プロジェクト

いずれも「持続可能で心豊かな社会の創造」が基軸です。マークをクリックすると詳細をご覧いただけます。

<p>A0 環境 価値学</p> <p>新しい価値観に根拠した 持続可能な社会の実現</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月11日公開</p>	<p>A3 エネルギー</p> <p>エネルギーの新しい 価値観創造と展開</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月4日公開</p>	<p>A4 資源循環</p> <p>資源が循環する 社会の創造</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月4日公開</p>
<p>B1 恒常性 維持</p> <p>自目的に心身恒常性維持を 図る国と健康社会の実現</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>準備中</p>	<p>C2 創未来 インフラ</p> <p>暮らしを豊かにする 創未来インフラの構築</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月10日公開</p>	<p>C3 感染症 超克</p> <p>多角的視点に立脚した 包括的な感染症リスク低減</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>準備中</p>
<p>C4 放射線 安全社会</p> <p>放射線に関するリスク懸念の 啓発と災害時対応および廃棄物 に関する基礎研究</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月4日公開</p>	<p>D2 近隣国 理解</p> <p>文理連携による東北アジアの 新しい地域理解と課題の共有</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>準備中</p>	<p>D4 情報の 未来</p> <p>心豊かにする 未来の情報科学</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月13日公開</p>
<p>D5 もの づくり</p> <p>優れたものづくり日本 を活かす戦略と体制</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>準備中</p>	<p>E2 長寿社会</p> <p>少子高齢社会から 心豊かな長寿社会へ</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月2日公開</p>	<p>E3 東北が 光に</p> <p>人々が先導く地域社会の創造と 企業の新事業創出による地域の再興</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月4日公開</p>
<p>E4 新生 食産業</p> <p>東北から始まる「いのち」を 育む農林水産・食品産業の構築</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>準備中</p>	<p>GO 大学の 意義</p> <p>百年将来を見据えた人類社会の 枢要に資する大学の役割</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年2月28日公開</p>	<p>G4 公正 社会へ</p> <p>グローバル化した市場経済 での格差・格差懸への提言</p>  <p>▶ 詳細を読む</p> <p>2021年3月12日公開</p>



百年将来を見据えた人類社会の枢要に資する大学の役割

令和3年度における活動実績・成果の概要

②「社会にインパクトある研究」第1回討論会の開催 2021年12月4日(土)13:00-15:30

【目的】社会課題が一層深刻化する一方、その解決の糸口がなかなか見えてこない現状において、社会的共通資本としての大学の役割は一層重くなっている。東北大学「社会にインパクトある研究」が発足して数年間が経過し、各プロジェクトにおいて、社会課題の解決の難しさが次第に明らかになってきている。そこで本討論会では、各プロジェクトのこの数年間の進捗ではなく、各プロジェクトに係わる「社会課題の解決の難しさはどこにあるのか」をご紹介いただいて共有し、社会課題解決上の問題点を整理し、解決の方向性を見出すことを目的とした。

A4: 資源循環: 資源が循環する社会の創造 (杉本教授)

C2: 創未来インフラ: 暮らしを豊かにする創未来インフラの構築～「造る」から「活かす」、そして「生きる」へ～ (久田教授)

C4: 放射線安全社会: 放射線に関するリスク理解の深化と災害時対応および廃棄物に関する基礎研究 (新堀教授)

D5: ものづくり: 優れたものづくり日本を活かす戦略と体制 (長坂教授)

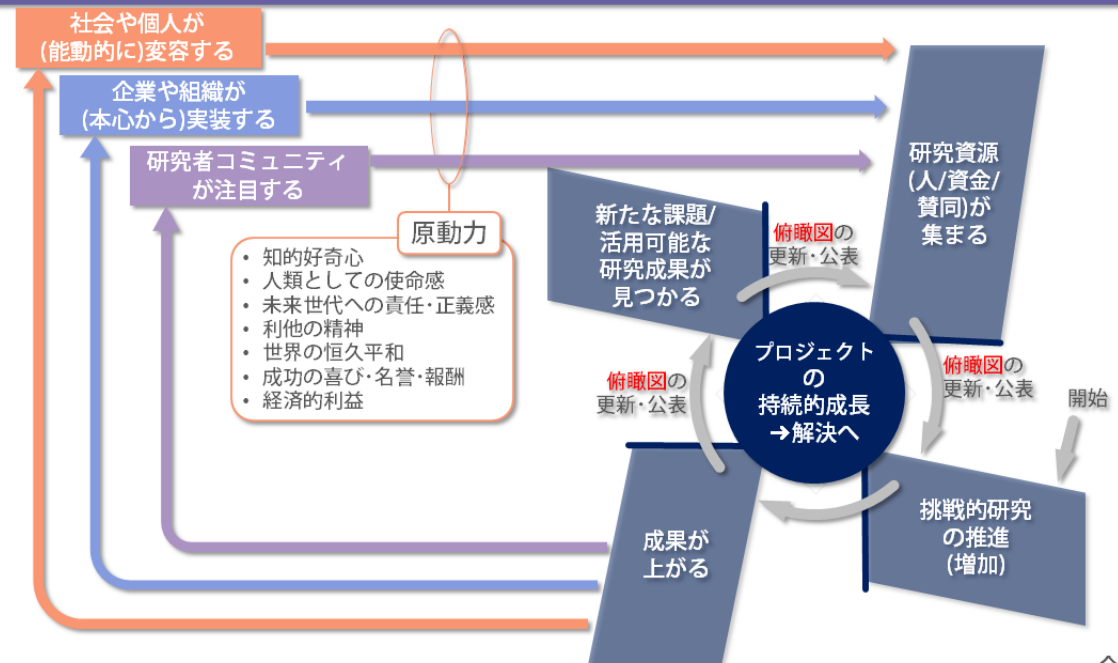
G0: 大学の意義: 百年将来を見据えた 人類社会の枢要に資する大学の役割 (金井)

里山からの心豊かな地方創生 (小倉教授)

講演会の録画ビデオ、議事録は、以下のホームページに公開中

関連ホームページ <http://www.ecei.tohoku.ac.jp/impact/>

「社会にインパクトある研究」の各プロジェクトの「持続的成長モデル」





百年将来を見据えた人類社会の枢要に資する大学の役割

令和3年度における活動実績・成果の概要

②「社会にインパクトある研究」第2回討論会の開催 2022年2月22日(火) 13:00-16:00

【目的】 様々な社会課題が一層深刻化する一方、それらの解決の糸口がなかなか見えてこない現状において、社会的共通資本としての大学の役割は一層重くなっている。東北大学「社会にインパクトある研究」が発足して数年間が経過し、各プロジェクトにおいて、社会課題の解決の難しさが次第に明らかになってきている。

第2回討論会では、2つのテーマ（C2+里山, A0）に絞り、持続可能で心豊かな社会の「未来のあるべき姿」と、本来人間が大切にしていた「とり戻したい過去」、それらと「現状」のギャップを埋めるという観点からの発表のあとに、出席者とともに議論を深めた。

- C2: 創未来インフラ：暮らしを豊かにする創未来インフラの構築～「造る」から「活かす」、そして「生きる」へ～（久田教授）
- 里山からの心豊かな地方創生（小倉教授）
- A0: 環境価値: 新しい価値観に根差した持続可能な社会の実現（吉岡教授）

講演会の録画ビデオ、議事録は、以下のホームページに公開中

令和4年度は、この討論会を9回企画。

「社会課題の解決シナリオ作成」を目指して

持続可能で心豊かな社会の「未来のあるべき姿」と、本来人間が大切に、とり戻したい「よき伝統」、それらと「現状」の隔たりを埋めるという観点から、「未来のあるべき姿」を選択し、そこへの到達戦略が必要となる。

